

中間評価結果（平成19、20年度採択）

番号	研究課題名	研究代表者	評価
19-1	凍結融解作用を受ける斜面の崩壊予知・災害危険度評価システムの確立	北海道大学大学院 教授 三浦 清一	B
<p>< 研究の概要 ></p> <p>凍結融解履歴あるいは融雪や降雨等の乾湿履歴に伴う構成地盤材料の力学特性の変化に着目し、積雪寒冷地にある破砕性粒状層を含む帯水斜面の安定解析手法を実務設計レベルで確立するとともに、寒冷地域の地盤情報データベースや凍結融解作用を受ける斜面の崩壊予知・災害危険度評価システムを構築する。</p> <p>< 研究継続の妥当性評価 ></p> <p>研究の進捗状況は順調であり、研究成果が期待できることから現行のとおり推進することが妥当である。なお、研究成果の一般化や、長期現地計測を踏まえた予測手法の信頼性の向上についても検討する必要がある。</p> <p>< 特記事項（今後の研究に対する意見・指摘事項等） ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 着斜面崩壊予知理論が信頼性のある予測手法となるためには、長期現地計測結果をフィードバックしながら予知理論を見直していく必要があり、そのための具体的な方法論を検討するとともに、本手法を用いた道路斜面管理の具体的な方法論を提示すること。 ・ 斜面崩壊予知理論構築のベースとなる模型実験と数値解析の正当性や精度の向上が必要である。 ・ 道路斜面の管理水準との関連において、斜面崩壊予知と災害危険度評価の定量的精度などの目標値が示される必要がある。 			